

「京小説」で観光を

読むため短編のみで、内容や観光に結びつくかといった観点から公開作品を選んだ。

森山さんの小説は花

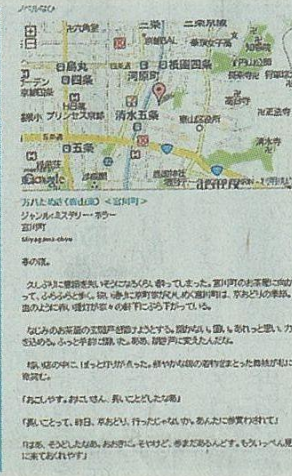
京都の名所を舞台に、花街や五条大橋など小説を創作し、読者をとどを取り上げた短編小説の地へ誘う新たな観光六十九作が集まった。その取り組みを、京都の観光団体や商店街関係者が進めている。「ノベル（小説）なび」と「京都フラワーツーリ

ズム推進協議会」を前身として、府や府観光連盟、商店街などで仕組みは、ネット上で小説を発表し、付属の地図機能や道案内機能を利用して、読者に舞台となった場所を観光してもらおう。現在はパソコンからしか見られないが、近く一部の携帯電話でも利用可能になる。

小説は、京都市出身のホラー作家森山さん（50）＝大阪市＝が「ガイドブックとは違う視点で京都を紹介できるのは面白い」と作家仲間と呼び掛けた集まった。携帯画面で

読めば心は花街、晴明神社

京都を舞台にした小説を、地図とともに公開している「ノベルなび」のホームページ



府など団体 6作ネット公開

年経フラワーツーリズム推進協議会」を前身に発足した。府や府観光連盟、商店街などで仕組みは、ネット上で小説を発表し、付属の地図機能や道案内機能を利用して、読者に舞台となった場所を観光してもらおう。現在はパソコンからしか見られないが、近く一部の携帯電話でも利用可能になる。

小説は、京都市出身のホラー作家森山さん（50）＝大阪市＝が「ガイドブックとは違う視点で京都を紹介できるのは面白い」と作家仲間と呼び掛けた集まった。携帯画面で

読むため短編のみで、内容や観光に結びつくかといった観点から公開作品を選んだ。

森山さんの小説は花街の宮川町が舞台のミステリー「万八たぬき」。なじみの舞妓から、歌舞練場の祠にまつられたタヌキの話をつづる。

仕組みは、ネット上で小説を発表し、付属の地図機能や道案内機能を利用して、読者に舞台となった場所を観光してもらおう。現在はパソコンからしか見られないが、近く一部の携帯電話でも利用可能になる。

小説の公募や、小説を元にしたツアーなどの計画もあり、企画を進める高木治夫さんは「作家に各地の魅力を掘り起こしてもらい、地域おこしにつなげたい」と話している。

「ノベルなび」のアドレスは <http://flower.tourism.net/novelnavi> (松田ゆづ)